

生体医歯工学共同研究拠点

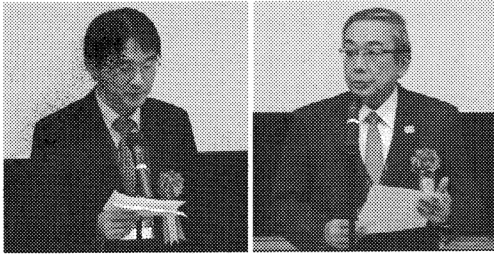
東工大で第2回国際シンポジウム

東京工業大学は11月9日、第2回生体医歯工学共同研究拠点国際シンポジウムを大岡山キャンパスで開催し、約260名の参加者を集めた。

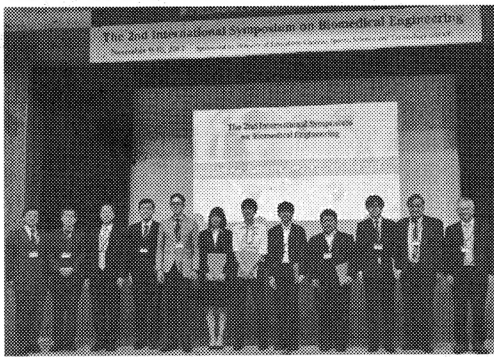
生体医歯工学共同研究拠点は、東京医科歯科大学生体材料工学研究所を中核拠点とし、東京工業大学未来産業技術研究所、広島大学ナノデバイス・バイオ融合科学研究所、静岡大学電子工学研究所により構成された「生体医歯工

学」を研究対象とする異分野連携ネットワーク形研究拠点。各研究所の強みをそれぞれの大学全体の機能強化に活用するとともに、国内外の研究者コミュニティと共同研究を展開し、医療・健康・バイオ領域の学際的連携研究の研究成果を広く社会実装することを目指している。

国際シンポジウムは、冒頭に三島良直東工大大学長による開会挨拶から始まった。来賓



来賓の西井学術機関課長 挨拶する三島東工大大学長



若手ポスターアワード受賞者ら

の文科省研究振興局学術機関課の西井知紀課長からは、「食料、健康、エネルギー、環境などが人類共通課題であり、本拠点は、4大学4研究所の連携・協力により、こうした人類共通の課題に対応した学術研究と人材育成の拠点を目指すもので、国際的な共同研究やノーベーション、産学連携の場を提供し、人類の幸福に貢献すること」を多くに期待している」との挨拶があった。引き続き、宮原裕二生体材料工学研究所長から拠点活動の紹介があった。

海外から当該研究分野を代表する研究者の招待講演4件、産学連携に関する招待講演4件、拠点関係者から最新の成果に関する口頭発表12件、公募研究を中心としたポスター講演165件があり、活発な情報交換、意見交換がなされた。クロージングセッションでは、優れたポスター発表の若手研究者7名にポスターアワードが授与され、広島大学ナノデバイス・バイオ融合科学研究所の横山新所長から、第3回国際シンポジウムの開催案内と閉会の辞が述べられた。